

## 知られざる郭沫若の諸事について (2)【サマリー】

齊藤孝治

郭沫若文庫の設置など中日文化研究所と強い繋がりを持つ中国の文人政治家郭沫若は、日本における友人の一人であった元自民党代議士古井喜実に言わせると「今後、郭先生を超える知日家は出ないだろう」と称されるほどの人物です。

それも郭沫若が延べにして20年もの長い間、日本で学生、亡命生活を送ったほか、その間、日本人女性と結ばれ、5人の子供を設けたことが大きいと思います。

しかしながら郭沫若については、在日期间が日中戦争など暗い時代と複雑に重なり合ったために、余りにも未知な事柄が多過ぎると言っても過言ではありません。

「知られざる郭沫若の諸事について」(1)は、とくに未知の「論文」「帰国秘話」に絞り論述したものです。

まず「論文」は、中国の歴史上、有名な西安事件が起きた直後、郭沫若が文藝春秋社発行の月刊誌「話」(昭和12年2月号)に執筆した「好敵手 蒋介石を語る」を指しています。

郭沫若は、蒋介石とは政治的な立場は相反していますが、一時期、軍閥打倒を目指してともに戦った間柄なため論文の中味は実に詳細なものの、何故か蒋介石個人に対しては好意、善意にあふれています。

「知られざる郭沫若の諸事について」(1)では、郭沫若の蒋介石への好意的な背景と共に当時の「話」編集部の実情にもふれています。

また「帰国秘話」は、日中戦争中、日本と中国で郭沫若に寄り添うように生きた反戦主義者、青山和夫の存在も明らかにしています。

青山は、情報の収集、分析のスペシャリストで、彼の力量を高く評価した蒋介石は、日中戦争中、国民政府の対日情報諜報機関「国際問題研究所」の顧問に就けたほどです。

青山はまた歴史学者の顔も持ち、著書「東洋古代社会史」は、郭沫若との繋がりから何と「アジア・アフリカ図書館」の郭沫若文庫に収蔵されています。

「知られざる郭沫若の諸事について」は今後も連載を続ける予定で、さらに未知の諸事について解きほぐして行くことにしています。